

渥美郡三町の時代



文化財課 ☎ 22-1720
(博物館) FAX 22-2028

「田原・赤羽根史現代編」発刊

田原市教育委員会では、「田原・赤羽根史現代編」の編集作業が完了し、7月に発刊します。その内容は、合併前の田原町と赤羽根町に的を絞り、昭和30年頃から平成17年の渥美町との合併までの約50年間の軌跡をまとめたものです。

渥美郡3町の時代には、それぞれの町が独自に町史を発刊しました。渥美町では、合併直前の平成17年9月に『渥美町史現代編』を発刊し、

昭和30年の渥美町の誕生から平成の合併までの軌跡をとりまとめています。一方、『田原町史』（上・中・下巻）と『赤羽根町史』は、昭和40年頃までの内容で終わっているため、それぞれの町史を田原市誕生前までにそろえるため、今回「田原・赤羽根史現代編」を発刊します。



●勢ぞろいした渥美郡3町史

昭和30年代から田原市誕生まで

当時の資料を見ていくと、昭和30年代から40年代にかけては頻繁に自然災害が発生していたことが分かります。昭和34年の伊勢湾台風は特に

大きな被害をもたらし、消防団員や地域住民が協力して救助活動や復旧作業を行いました。この痛手から立ち直りつつあった昭和37年には七夕豪雨、昭和41年には集中豪雨と何度も自然災害が発生し、復興に立ち向かいました。

昭和40年代は、農業構造改善事業や昭和43年の豊川用水全面通水により農業が目覚ましい発展を遂げる中、重要港湾に指定された三河港の整備や臨海工業用地の造成が進められ、田原町や赤羽根町が一段と飛躍した時期でした。また、成章高校が初めて甲子園に出場し、渥美半島全体が盛り上がったのもこの時期でした。

昭和50年代になると赤羽根町では町役場新庁舎や農業者トレーニングセンターの建設、田原町では総合体育館の建設や土地区画整理事業の実施、三河港大橋の開通など多くのインフラ整備が行われた時期でした。

平成の時代に入ると、国際交流が活発に行われ、平成2年には田原町とアメリカジョージタウン市が姉妹都市、平成5年には赤羽根町と中国昆山市が友好都市提携を結び、町民

海外研修や中学生海外派遣、研修生の受け入れなどが積極的に行われました。

このように約50年間の振り返ってみると、さまざまな時代背景の中で、いろいろな出来事が起こりました。「田原・赤羽根史現代編」では、これらを分野別に調査し、編集委員会委員が分かりやすく執筆しています。『渥美町史現代編』と併せて渥美郡3町の時代を振り返り、私たちの郷土・田原市への理解と愛着を深める一助となることを願っています。

(編集委員会事務局)



●合併を記念したくす玉

【田原・赤羽根史現代編】

- ・販売価格 1冊4000円
- ・販売場所 田原市博物館
中央図書館
- ・販売開始 7月中旬予定